科目名	進路研究 I				指導担当者名		就職担当職員
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:	0	演習:		実習:		実技:
年間時間数		28	時間		週時間数		1 時間
学習到達目標	<ul><li>前期では、一</li></ul>	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	SUCCESS						
授業外学習の方法	教科書復習						

#### 学期 項目 内容·準備資料等 ターム 講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴) オリエンテーション 就職活動の心構え身だしなみ 1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか 就職活動での身だしなみ 5-1~5-1(実践編) 身だしなみ 学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い 就職活動の流れ 2-2 職種と業種の違いが分かるように\*志望動機は飛ばします 職業を知る 授 情報収集、企業研究、資料請求 1 2-2(実践編) 業界マップの理解 業 計 情報収集、企業研究、資料請求 2 2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する 画 8 情報収集、企業研究、資料請求 3 2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する 前 自分自身を知る 自分史の作成 1 9 3-4から3-6-2 •3-4自己PRのネタを探す 期 10 自分自身を知る 自分史の作成 2 3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験) 11 自分自身を知る 自分史の作成 3 3-4から3-6-2 ·3-4-2自己PRのネタを探す(特性) 12 自分自身を知る 自分史の作成 4 3-4から3-6-2 ·3-5自己PRの骨格を作る 13 自分自身を知る 自分史の作成 5 3-4から3-6-2 •3-5自己PRの骨格を作る(実践編) 14 期末試験(一般常識) 自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
- ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	進路研究 I			指導担当者名		就職担当職員	
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:	0	演習:		実習:		実技:
年間時間数		28	時間		週時間数		1 時間
学習到達目標	<ul><li>前期では、一</li></ul>	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。					
	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	SUCCESS						
授業外学習の方法	教科書復習						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書
授 業	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成
授 業 計 画	21	企業訪問	5-1,5-2
	22	就職試験のマナー 1	5-2 <sup>~</sup> 5-3(実践編) 入退室
後期	23	就職試験のマナー 2	5-2 <sup>~</sup> 5-3(実践編) 面接試験対策1
	24	就職試験のマナー 3	5-2 <sup>~</sup> 5-3(実践編) 面接試験対策2
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	28	期末試験(履歴書)	履歴書提出

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	クロスオーバーゼミ I			指導担当者名		常勤	
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:	0	実習:		実技:
年間時間数		56	時間		週時間数		2 時間
学習到達目標	・授業内におり	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学び につなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	ゼミごとに異な	:a					
授業外学習の方法	ゼミごとに異な	:a					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
授 業 計	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
計画	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
前期	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	14	期末試験	期末試験		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	クロスオーバーゼミ I			指導担当者名		常勤	
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:	0	実習:		実技:
年間時間数		56	時間		週時間数		2 時間
学習到達目標	<ul><li>・授業内における</li></ul>	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学び につなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	ゼミごとに異な	:a					
授業外学習の方法	ゼミごとに異な	:ব					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
授 業 計	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
計画	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
後期	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	28	期末試験	期末試験

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ボイストレーニング実習 Ι			指導担当者名	山家ちあき			
実務経験	有	有 ラジオMC、ボイストレーナーに従事						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3	時間
学習到達目標	・発声、歌唱テ	・学生による自身の音域の理解 ・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ ・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する						
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	電子ピアノ、楽	·普 等						
授業外学習の方法	録音データを関	<b>徳く、自主練を</b>	行う					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション			
	2	呼吸·発声①、	ウォーミングアップ、柔軟体操、ストレッチと筋肉強化について		
	3	呼吸•発声②	姿勢、呼吸、発声、共鳴とフェイストレーニング		
	4	のどと声帯・呼吸器官について	咽頭・喉頭、声帯の仕組み、胸式呼吸・腹式呼吸について実習を通して学ぶ		
	5	歌唱の呼吸①、歌唱指導①	深い息に耐えられる体づくり、課題曲		
授 業	6	歌唱指導②	ハミング、課題曲		
授 業 計 画	7	歌唱指導③	リップロール、課題曲		
	8	歌唱指導④	のどを柔軟にする		
前期	9	歌唱指導⑤	課題曲を完成させる		
	10	歌唱指導⑥	課題曲を完成させる、個別指導		
	11	歌唱指導⑦	課題曲の発表会、個別指導		
	12	これまでの復習	復習		
	13	期末試験	課題曲発表		
	14	振り返り	前期の振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ボイストレーニング実習 I				指導担当者名	山家ちあき		
実務経験	有	ラジオMC、ボイ	ストレーナーに彷	<b>详事</b>				
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3	時間
学習到達目標	・発声、歌唱テ	身の音域の理・ クニック、表現 声幅と歌唱感	を学ぶ					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 朝末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 或績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A,B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	電子ピアノ、楽譜等							
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	前期の復習、オリエンテーション	前期の復習、後期の授業内容を理解する。
	16	声域①	自分の声域を知る
	17	声域②	キーの設定、声区について学ぶ
	18	歌唱の呼吸②、歌唱指導①	共鳴を学ぶ
	19	歌唱指導②	ロングトーンの基礎、課題曲
授 業	20	歌唱指導③	クレッシェンドとデクレッシェンド、課題曲
授 業 計 画	21	歌唱指導④	ピアノとフォルテ、課題曲
	22	歌唱指導⑤	裏声とファルセット、課題曲
後期	23	歌唱指導⑥	音階、課題曲
	24	歌唱指導⑦	全音、半音、課題曲
	25	これまでの復習	復習
	26	期末試験	課題曲発表
	27	振り返り	期末試験振り返り
	28	振り返り	1年間の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	セルフプロデュース実習 I			指導担当者名		矢田部翔子	
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。						
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等						
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業進行についての説明
	2	インプロビゼーション	人前で演じる練習(インプロビゼーション)
	3	感情開放	人前で演じる練習(感情開放)
	4	宣材写真基礎知識	宣材写真の基礎知識を学ぶ
	5	宣材写真ポージング	宣材写真のポージング実習
授 業	6	宣材写真撮影	宣材写真の撮影
授 業 計 画	7	ボイスサンプル制作①	ボイスサンプルの台本制作を行う
	8	ボイスサンプル制作②	ボイスサンプルの台本制作、添削を行う
前期	9	ボイスサンプル制作③	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)
	10	ボイスサンプル制作④	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)
	11	ボイスサンプル制作⑤	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)
	12	ボイスサンプル制作⑥	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)
	13	前期期末試験	ボイスサンプルの実演試験
	14	前期振り返り	オーディション対策、他の人の自己PRを見る

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	セルフプロデュース実習 I			指導担当者名		矢田部翔子	
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	羅瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A,B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等						
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習						

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
	15	オリエンテーション	前期の学習内容の振り返り
	16	オーディション基礎知識	オーディションの種類、オーディションの内容について学ぶ
	17	模擬オーディション実習①	対面を想定した模擬オーディションを行う
	18	模擬オーディション実習②	オンラインを想定した模擬オーディションを行う
	19	オーディション対策①	自己PRの見直し
授 業	20	オーディション対策②	目標とする養成所・事務所についての分析
授 業 計 画	21	オーディション対策③	自己表現
	22	事務所·養成所基礎知識	事務所・養成所のあり方、選び方
後期	23	インプロビゼーション①	即興劇
	24	インプロビゼーション②	動きを制限した演技表現
	25	プロとしての心構え①	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける
	26	プロとしての心構え②	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける
	27	後期期末試験	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)
	28	後期振り返り	後期の学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ダンス実習 I			指導担当者名		藤原悦子	
実務経験	有	有 ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習: С		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・体力の向上を	・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	なし						
授業外学習の方法	自宅でのストし	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等					

#### 学期 項目 内容·準備資料等 ターム 授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明 オリエンテーション 柔軟、筋トレ、バーレッスン① ダンスの基礎である柔軟性や筋力トレーニングのやり方を覚える 柔軟、筋トレ、バーレッスン② ダンスの基礎である柔軟性や筋力トレーニングのやり方を覚える ダンスの基礎である柔軟性や筋力トレーニングのやり方を覚える 柔軟、筋トレ、バーレッスン③ 柔軟、筋トレ、バーレッスン4 ダンスの基礎である柔軟性や筋力トレーニングのやり方を覚える 授 柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤、様々なダンスジャンル① ヒップホップについて知る 業 計 様々なダンスジャンル① ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る 画 様々なダンスジャンル② ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る 前 バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る 9 様々なダンスジャンル③ 期 10 様々なダンスジャンル4 フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る タンゴ、ベリーダンスについて知る 11 様々なダンスジャンル⑤ 12 様々なダンスジャンル⑥ コンテンポラリーダンスについて知る 13 前期期末試験 ダンスの基礎実技試験 14 前期振り返り 前期の学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
- ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ダンス実習 I			指導担当者名		藤原悦子	
実務経験	有	有 ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習: ○		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る						
	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	なし						
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等						

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
	15	前期振り返り/後期オリエンテーション	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	16	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	17	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	18	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	19	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
授 業	20	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック
授 業 計 画	21	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	22	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
後期	23	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	24	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	25	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習
	26	振り付け⑪	ダンス実習 実技小テスト
	27	後期期末試験	ダンス発表
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ナレーション演習			指導担当者名		宗方 和子	
実務経験	有	有 10年以上、司会業、ナレーターとして従事					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:	0	実習:		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得						
評価方法 評価基準							
使用教材	はじめてのナロ	レーショントレー	ーニング、本番ラ	ナレーション原和	高		
授業外学習の方法	外部スタジオで	でのナレーショ	ン収録への参加	10、授業内で出	した課題の実持	支練習	
学期	ターム		項目			内容•準	備資料等
	1	オリエンテージ	ション		自己紹介、授	業の目的∙流∤	ιの説明、ナレーションとは
	2	コマーシャルフ	ナレーション①		コマーシャルナ	レーション基	楚知識
	3	コマーシャルフ	ナレーション②		声のトーンでナ	レーションの	イメージに変化をつける
	4	コマーシャルフ	ナレーション③		様々なコマーシャルナレーション原稿を読む		ョン原稿を読む

学期	ターム	項目	内容•準備資料等
	1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的・流れの説明、ナレーションとは
	2	コマーシャルナレーション①	コマーシャルナレーション基礎知識
	3	コマーシャルナレーション②	声のトーンでナレーションのイメージに変化をつける
	4	コマーシャルナレーション③	様々なコマーシャルナレーション原稿を読む
	5	声の響きについて	自分の声の響きや特徴を理解する
授業	6	様々なナレーション①	映画番組の予告ナレーション演習
授 業 計 画	7	様々なナレーション②	ドキュメンタリーナレーション
	8	様々なナレーション③	コメディナレーション
前期	9	様々なナレーション④	旅行番組、お店の紹介ナレーション
	10	様々なナレーション⑤	動物番組ナレーション
	11	様々なナレーション⑥	企業紹介ナレーション
	12	様々なナレーション⑦	店内アナウンス
	13	前期期末試験	ナレーションの実技試験
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		ナレーション演習			指導担当者名		宗方 和子
実務経験	有	10年以上、司会	業、ナレーター	として従事			
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習: ○		実習:		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得						
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	はじめてのナレ	まじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿					
授業外学習の方法	外部スタジオで	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習					

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
	15	様々なナレーション⑧	劇場内などの案内ナレーション
	16	様々なナレーション⑨	博物館、イベント広報アナウンス
	17	様々なナレーション⑩	音声ガイド、結婚式映像ナレーション
	18	声、呼吸のトレーニング	呼吸と発声の確認
	19	アクセント、イントネーションの確認	アクセント辞典の使い方、イントネーションについて
授 業 計	20	プロミネンス	プロミネンス(強調)のトレーニング
計画	21	アーティキュレーション	アーティキュレーション(滑舌)のトレーニング
	22	フレージング	フレージング(句節法)のトレーニング
後期	23	ポーズ	ポーズ(間)のトレーニング
	24	リズム	リズムのトレーニング
	25	長物ナレーション	長物原稿のナレーショントレーニング
	26	紀行物ナレーション	紀行物原稿のナレーショントレーニング
	27	後期期末試験	ナレーション実技試験
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	コンテンツ制作実習 I			指導担当者名		伊東 広	
実務経験	有	長年にわたる音	「響制作、スタジ	才経営者			
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習: 〇		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	<ul> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>						
	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類						
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク~スピーカー音が出るまで
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF オーダシティ① 録音
	5	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1
授業	6	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1
授 業 計 画	7	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト
	8	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト
前期	9	ボイスサンプル研究①	現役声優のサンプル研究、自己PR録音編集
	10	ボイスサンプル研究②	現役声優のサンプル研究、セリフ録音編集
	11	ボイスサンプル研究③	現役声優のサンプル研究、ナレーション録音編集
	12	ボイスサンプル研究④	現役声優のサンプル研究、歌唱録音編集
	13	前期期末試験	ボイスサンプル完成、提出
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	コンテンツ制作実習 I			指導担当者名		伊東 広		
実務経験	有	有 長年にわたる音響制作、スタジオ経営者						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間	
学習到達目標	<ul><li>パソコンでの</li><li>文章作成/構</li></ul>	・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作						
	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。							
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類							
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う							

#### 学期 項目 内容•準備資料等 ターム 音響制作① 15 舞台音響制作体験① 音響制作② 舞台音響制作体験② 16 17 作品制作① ボイスラジオドラマ制作 企画 作品制作② ボイスラジオドラマ制作 企画 18 作品制作③ ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング 19 授 作品制作④ ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング 20 業計 作品制作⑤ ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出 21 画 22 作品制作⑥ ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出 後 作品制作⑦ ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出 23 期 24 作品制作图 ボイスラジオドラマ制作 編集作業 作品制作9 25 ボイスラジオドラマ制作 編集作業 26 ボイスラジオドラマ制作 編集作業 作品制作⑩ 後期末試験 ボイスドラマ完パケ 27 後期振り返り 舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り 28

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
- ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	演技表現実習 I				指導担当者名		ちば	えみ
実務経験	有	有 県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	・演技表現の	・演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	00点満点で評 !技試験や筆記 \る。期末試験 \(80点~100点:	価していく。 !試験、プレゼン の結果、必要と	√テーションによ :認められる場か 9点:良)、C(60	:って行われ、受 合には追試験を 点 <sup>~</sup> 69点: 可)、[	を験資格として 主実施する。 D(0点 <sup>~</sup> 59点:不	授業実施 可)」の4	-ト等の提出状況を 施の出席率80%以上 4段階とする。A, B, 合評価する。
使用教材	台本							
授業外学習の方法	自宅での台本	読み、発声、復	 と作り 等					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション		
	2	演技とは何か?	演技の基礎知識		
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、基礎トレーニング①		
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、基礎トレーニング②		
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①		
授 業 計	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②		
計画	7	実践トレーニング⑤	エチュード①		
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②		
前期	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」		
	10	実践トレーニング⑧	感情表現「怒」		
	11	実践トレーニング⑨	感情表現「哀」		
	12	実践トレーニング⑩	感情表現「楽」		
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト		
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	演技表現実習 I			指導担当者名		ちば	えみ	
実務経験	有	有 県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義: 演習:			実習:	0		実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	・演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。							
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	台本							
授業外学習の方法	自宅での台本	読み、発声、復	と作り 等	_	_		_	

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	15	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①		
	16	舞台稽古	キャスト別台本読み②		
	17	舞台稽古	立ち稽古①		
	18	舞台稽古	立ち稽古②		
	19	舞台稽古	立ち稽古③		
授 業	20	舞台稽古	立ち稽古④		
授 業 計 画	21	舞台稽古	立ち稽古⑤		
	22	舞台稽古	通し稽古①		
後期	23	舞台稽古	通し稽古②		
	24	舞台稽古	通し稽古③		
	25	舞台稽古	リハーサル		
	26	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み		
	27	後期期末試験	舞台本番にて実技試験		
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ラジオ・MC実習 I		指導担当者名		穂月		
実務経験	有	有 10年以上、県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:	実習: (		0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	00点満点で評 技試験や筆記 いる。期末試験 A(80点~100点:	価していく。  試験、プレゼン の結果、必要と 優)、B(70点~7	√テーションによ :認められる場 <sup>・</sup> 9点:良)、C(60	:って行われ、 合には追試験? 点 <sup>~</sup> 69点: 可)、[	受験資格として を実施する。 D(0点 <sup>~</sup> 59点:不	1、レポート等の提出状況を 授業実施の出席率80%以上 可)」の4段階とする。A, B, 化し総合評価する。
使用教材	MC原稿、筆記	門具					
授業外学習の方法	ナレーション原	<b>福作成、原稿</b>	読み等				

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション		
	2	MC基礎知識	MC・司会業について実践を交え学ぶ		
	3	MC基礎知識②	MC・司会業について実践を交え学ぶ		
	4	MC基礎知識④	MC・司会業について実践を交え学ぶ		
	5	MC基礎知識③	MC・司会業について実践を交え学ぶ		
授 業	6	滑舌発音チェック	MC・司会業について実践を交え学ぶ		
授 業 計 画	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品のナレーションイベントMC		
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC		
前期	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC		
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC		
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC		
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会		
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト		
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ラジオ・MC実習 I			指導担当者名		穂月	
実務経験	有	有 10年以上、県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	00点満点で評 技試験や筆記 いる。期末試験 A(80点~100点:	価していく。 !試験、プレゼン の結果、必要と 優)、B(70点~7	√テーションによ :認められる場↑ 9点:良)、C(60	って行われ、受 合には追試験を 点 <sup>~</sup> 69点: 可)、[	受験資格として を実施する。 O(0点 <sup>~</sup> 59点: 不	」、レポート等の提出状況を 授業実施の出席率80%以上 可)」の4段階とする。A, B, 化し総合評価する。
使用教材	MC原稿、筆記	門具					
授業外学習の方法	ナレーション原	福作成、原稿	読み等	-			

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会
	16	ラジオ番組制作①	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	17	ラジオ番組制作②	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	18	ラジオ番組制作③	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	19	ラジオ番組制作④	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
授業	20	ラジオ番組制作⑤	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
授 業 計 画	21	ラジオ番組制作⑥	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	22	ラジオ番組制作⑦	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
後期	23	ラジオ番組制作⑧	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	24	ラジオ番組制作⑨	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	25	ラジオ番組制作⑩	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	26	ラジオ番組制作⑪	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	27	後期期末試験	実技テスト
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	Vtuber実習 I			指導担当者名		ナナホシナナ	
実務経験	有	有 配信関係の仕事及びVtuberとしての活動歴合計で3年以上従事					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	Vtuberの活動	Vtuberの活動の裏側や、配信技術、キャラクター作り、ファンとの関わり方など、実践的な知識を身につける。					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	00点満点で評 技試験や筆記 \る。期末試験 \(80点~100点:	価していく。  試験、プレゼン の結果、必要と 優)、B(70点~7	テーションによ 認められる場で 9点:良)、C(60	って行われ、受 合には追試験を 点 <sup>~</sup> 69点: 可)、[	を験資格として 主実施する。 D(0点 <sup>~</sup> 59点: 不	、レポート等の提出状況を 授業実施の出席率80%以上 可)」の4段階とする。A, B, 化し総合評価する。
使用教材	パソコン						
授業外学習の方法	様々な映像作	品を見る					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の流れについて
	2	Vtuberとは?	Vtuberの定義や歴史を学ぶ
	3	Vtuber業界の仕組み	企業勢と個人勢の違いや運営体制を知る
	4	キャラクターデザインとブランディング	キャラ設定や差別化のポイントを学ぶ
	5	Vtuberの機材とソフト	必要な機材やソフトの種類を理解する
授 業	6	Live2D・3Dモデルの基礎	モデルの仕組みや作成方法を学ぶ
授 業 計 画	7	Vtuberの配信プラットフォーム	各プラットフォームの特徴を知る
	8	動画制作と編集技術	動画の作り方や編集技術を学ぶ
前期	9	配信技術と環境構築	OBSの設定や音声調整を学ぶ
	10	配信コンテンツの企画と運営	配信の企画やジャンルの特徴を学ぶ
	11	コラボ配信の戦略	コラボの進め方や戦略を学ぶ
	12	SNS運用とファンコミュニケーション	SNSの活用法やファンとの関係を学ぶ
	13	収益化の仕組み	収益モデルや収益化の方法を学ぶ
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	Vtuber実習 I				指導担当者名		ナナホシナナ
実務経験	有	配信関係の仕事	事及びVtuberとし	ての活動歴合語	十で3年以上従事	<b>.</b>	
開講時期	通年 対象学科学年 声優科1年生						
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	全目標 Vtuberの活動の裏側や、配信技術、キャラクター作り、ファンとの関わり方など、実践的な知識を身につける。						
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	パソコン						
	₩ <u> </u>						

### 授業外学習の方法様々な映像作品を見る

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	0	0
	2	グッズ販売とマーチャンダイズ戦略	グッズの展開や販売方法を学ぶ
	3	炎上対策とリスクマネジメント	炎上事例を分析し対策を学ぶ
	4	Vtuberの法律と著作権	著作権や企業案件の注意点を知る
	5	Vtuber事務所・プロダクションの運営	企業勢の運営やマネジメントを学ぶ
授 業	6	バーチャルライブ・イベント運営	ライブの仕組みやイベント企画を学ぶ
授 業 計 画	7	AIとVtuberの未来	AI技術の活用や未来の展望を考える
	8	実践ワークショップ①: Vtuber企画発表	自分のVtuberキャラを考え発表する
後期	9	実践ワークショップ②:模擬配信	模擬配信を行う
	10	実践ワークショップ③	企画を元にした動画配信・撮影
	11	実践ワークショップ④	撮影した動画の編集
	12	実践ワークショップ⑤	編集したデータのフィードバック
	13	実践ワークショップ⑥	フィードバックをもとに再調整の実施
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		声優総領	声優総合実習 I				矢田部	翔子
実務経験	無							
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	3	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標		前期:YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 朝末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	MC原稿、筆記	MC原稿、筆記用具						
授業外学習の方法	ナレーション原	[稿作成、原稿]	読み等					

#### 学期 項目 ターム 内容•準備資料等 オリエンテーション 授業の流れの説明、教材について SWAY(1) MicrosoftSWAYのブラウザアプリの使用方法を学ぶ SWAY(2) MicrosoftSWAYのブラウザアプリを使用した紹介ページを作成する。 アプリ、ソフトウェアについて アプリケーション、ソフトのインストール YouTubeアカウント作成 在学中の活動用アカウント、チャンネル作成、YouTubeStudioについて学ぶ 授 アバター制作① アプリを使用したアバター制作について学ぶ 業計 アバター制作② 実際にアバターを作成し、動かし方を学ぶ 画 OBSについて(1) OBSstudioのインストール、機能理解 前 9 OBSについて② OBSstudioの使用方法、設定、画面レイアウトを行う 期 10 動画用素材作成① YouTubeチャンネルのバナー、透かし、プロフィールようアイコンについて学ぶ 11 録画用素材作成② YouTubeチャンネル用のバナー、透かし、プロフィールアイコンを実際に作成する 12 Vチューバー自己紹介動画の制作① 動画用背景、アバターを使用したVチューバー自己紹介動画をOBSで録画する。 13 Vチューバー自己紹介動画の制作② 録画した動画にテロップ、BGM、SEを入れてVチューバーの自己紹介動画を完成させる 14 前期振り返り 前期授業内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
- ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	声優総合実習 I			指導担当者名		矢田部 翔子		
実務経験	無							
開講時期	通年		対象学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3 E	時間
学習到達目標	・前期:YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。							
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 明末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	MC原稿、筆記用具							
授業外学習の方法	ナレーション原	福作成、原稿	読み等					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	舞台基礎①	舞台の基礎知識、役者、スタッフの役割について学ぶ
	16	舞台基礎②	舞台の基礎知識、舞台の道具、舞台の構造について学ぶ
	17	衣装制作①	舞台衣装の制作実習
	18	衣装制作②	舞台衣装の制作実習
	19	大道具制作①	舞台道具の制作実習
授 業	20	大道具制作②	舞台道具の制作実習
授 業 計 画	21	舞台稽古①	台本の内容、セリフを覚える。
	22	舞台稽古②	台本無し、動き有りの演技
後期	23	舞台稽古③	本番に向けた稽古を重ねる、舞台演出について学ぶ
	24	企画、構成	企画チームを発足し、ボイスドラマ制作の企画を行う
	25	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成
	26	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成
	27	後期期末試験	プレゼン資料の提出、プレゼンテーションを行う
	28	後期振り返り	後期の授業内容の振り返りを行う

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	コミュニケーション演習		ーション演習		指導担当者名		佐藤 美希子
実務経験	無						
開講時期	前期		対象学科学年		声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:	0	実習:		実技:
年間時間数		28	時間		週時間数		時間
学習到達目標	サーティファイす。	ナーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	コミュニケーシ	ョン検定初級	テキスト				
授業外学習の方法	テキストを使用	月し、過去問題を	を回答する				
学期	ターム		項目			内容•準	備資料等
	1	オリエンテーシ	ノョン		授業の目的、使用	用教材についての	D理解、授業の進行について説明
	2	パート1 コミニ	ュニケーションセ	マオリー(理論)	1ー1コミュニケ	rーションを考:	える、2-1目的に即して聞く
	3	パート1 コミニ	ュニケーションセ	マオリー(理論)	2-2傾聴•質	問する	
	4	パート1 コミニ	ュニケーションセ	マオリー(理論)	3-1目的を意	識する	
	5	パート1 コミニ	ュニケーションセ	マオリー(理論)	3-2話を組み	·立てる	

パート1 コミュニケーションセオリー(理論) 3-3言葉を選び抜く

パート1 コミュニケーションセオリー(理論) 3-4表現伝達する

パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) 1-1来客応対、1-2電話応対

パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) 1-5チームコミュニケーション

パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) 2-1接客営業、2-2クレーム対応

|パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)||2ー3会議・取材・ヒアリング、2ー4面接

パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) 1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性

模擬試験 検定本番

# 14 期末試験

履修上の留意点

授

業計

画

前

10

12 13

・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

検定対策

・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		修了制作]	Ī		指導担当者名	担任		
実務経験	無							
開講時期	後期	対象	.学科学年			声優科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数	180 時間			週時間数		時間		
学習到達目標	・1年生:1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。							
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	デジタルコンテ	テンツ制作に必要なな	物を各自用意	意。				
授業外学習の方法	制作にあたり、	事前の企画・計画を	をそれぞれ複	夏数の先生方	「と行い、チェッ	クをもらう事		
学期	ターム	J	項目		内容·準備資料等			
	1	作品制作①			事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる			
	2	作品制作②			個別添削を行	いながら制作を	を進めていく	
	3	作品制作③			中間発表			
	4	学科内プレゼンテー	ーション		学科内でプレイ	ヹンテーション	を実施	
	5 発表を受けての修正と展示準備		正と展示準備	##	オンライン展示およびオンサイト展示を実施			
授 業	ľ				カンプラン成が	100001127	イト展示を実施	
業							イト展示を実施 に、デジタル保存をする	
計								
計画	6							
計画	6 7							
計	6 7 8							
計画	6 7 8 9							

#### 履修上の留意点

13 14

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	進路研究Ⅱ			指導担当者名		就職担当職員	
実務経験	無	<b>無</b>					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	
授業方法	講義:	0	演習:		実習:		実技:
年間時間数		28	時間		週時間数		1 時間
学習到達目標	・前期は、一般	就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 前期は、一般常識を強化 後期は、個別指導を強化					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 朝末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	SUCCESS	success					
授業外学習の方法	教科書復習						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き
	2	一般常識2	国語 2 対義語·類義語 3 同音異義語·同訓異字
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理
授 業	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済
授 業 計 画	7	小テスト	中学レベル小テスト
	8	一般常識7	英語 1 英単語·英熟語 2 英文法1 3 英文法2
前期	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現·慣用表現
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率
	12	一般常識11	理科 1 物理·化学 2 生物·地学
	13	一般常識12	文化·芸術·雑学
	14	期末テスト	一般常識総ざらい

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	進路研究Ⅱ			指導担当者名		就職担当職員	
実務経験	無	無					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	
授業方法	講義:	0	演習:		実習:		実技:
年間時間数		28	時間		週時間数		1 時間
学習到達目標	・前期は、一般	就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 前期は、一般常識を強化 後期は、個別指導を強化					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 朝末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 或績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	SUCCESS	success					
授業外学習の方法	教科書復習						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書
授 業	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成
授 業 計 画	21	就職試験のマナー 1	5-2 <sup>~</sup> 5-3(実践編) 入退室
	22	就職試験のマナー 2	5-2 <sup>~</sup> 5-3(実践編) 面接試験対策1
後期	23	就職試験のマナー 3	5-2 <sup>~</sup> 5-3(実践編) 面接試験対策2
	24	個別指導1	書類添削、面接指導
	25	個別指導2	書類添削、面接指導
	26	個別指導3	書類添削、面接指導
	27	個別指導4	書類添削、面接指導
	28	個別指導5	書類添削、面接指導

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	クロスオーバーゼミⅡ			指導担当者名		常勤	
実務経験	無						
開講時期	通年		対象学科学年		声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:	○ 実習:		実技:	
年間時間数		56	時間		週時間数		2 時間
学習到達目標	<ul><li>・授業内におり</li></ul>	学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学び こつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 意数配分し、100点満点で評価していく。 明末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 な積評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B,					
使用教材	ゼミごとに異な	ぜミごとに異なる					
授業外学習の方法	ゼミごとに異な	 る					

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
授 業 計	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
計画	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
前期	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	クロスオーバーゼミⅡ				指導担当者名		常勤
実務経験	無	無					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	
授業方法	講義:		演習:	0	実習:	実技:	
年間時間数		56	時間		週時間数		2 時間
学習到達目標	<ul><li>・授業内におり</li></ul>	学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学び こつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 朝末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 或績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	ゼミごとに異なる						
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
授 業 計	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
計画	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
後期	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	28	期末試験	期末試験

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ボイストレーニング実習 Ⅱ			指導担当者名		山家ちあき	
実務経験	有 ラジオMC、ボイストレーナーとして従事						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	:
授業方法	講義:		演習:		実習: 〇		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・発声、歌唱テ	学生による自身の音域の理解 発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ 声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する					
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 気数配分し、100点満点で評価していく。 明末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 受要と認められる場合には追試験を実施する。 「表記録の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 「表記録のは「A(80点~100点・優)、B(70点~79点・良)、C(60点~69点・可)、D(0点~59点・不可)」の4段階とする。A、B、 「なの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	電子ピアノ、楽譜等						
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	1年次の振り返り
	2	呼吸·発声①、	ウォーミングアップ、柔軟体操、ストレッチと筋肉強化について
	3	呼吸•発声②	姿勢、呼吸、発声、共鳴とフェイストレーニング
	4	のどと声帯・呼吸器官について	咽頭・喉頭、声帯の仕組み、胸式呼吸・腹式呼吸について実習を通して学ぶ
	5	歌唱の呼吸①、歌唱指導①	深い息に耐えられる体づくり、課題曲
授 業	6	歌唱指導②	ハミング、課題曲
授 業 計 画	7	歌唱指導③	リップロール、課題曲
	8	歌唱指導④	のどを柔軟にする
前期	9	歌唱指導⑤	課題曲を完成させる
	10	歌唱指導⑥	課題曲を完成させる、個別指導
	11	歌唱指導⑦	課題曲の発表会、個別指導
	12	これまでの復習	復習
	13	期末試験	課題曲発表
	14	振り返り	前期の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ボイストレーニング実習 Ⅱ			指導担当者名		山家ちあき		
実務経験	有	有 ラジオMC、ボイストレーナーとして従事						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間	
学習到達目標	・発声、歌唱テ	学生による自身の音域の理解 ・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ ・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 気数配分し、100点満点で評価していく。 明末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 技績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A,B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					上	
使用教材	電子ピアノ、楽譜等							
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	前期の復習、オリエンテーション	前期の復習、後期の授業内容を理解する。
	16	声域①	自分の声域を知る
	17	声域②	キーの設定、声区について学ぶ
	18	歌唱の呼吸②、歌唱指導①	共鳴を学ぶ
	19	歌唱指導②	ロングトーンの基礎、課題曲
授 業	20	歌唱指導③	クレッシェンドとデクレッシェンド、課題曲
授 業 計 画	21	歌唱指導④	ピアノとフォルテ、課題曲
	22	歌唱指導⑤	裏声とファルセット、課題曲
後 期	23	歌唱指導⑥	音階、課題曲
	24	歌唱指導⑦	全音、半音、課題曲
	25	これまでの復習	復習
	26	期末試験	課題曲発表
	27	振り返り	期末試験振り返り
	28	振り返り	1年間の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		アフレコ実習			指導担当者名		小椋	有紗
実務経験	有	有 3年以上、声優・役者としてプロダクション所属			)経験			
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習: 〇 実		実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	アフレコに関す	プフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 気数配分し、100点満点で評価していく。 明末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 要供としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	台本、筆記用具							
授業外学習の方法	台本読み、役作り等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	授業の流れの説明		
	2	基礎知識①	アフレコに関する知識、事務所・養成所について		
	3	基礎知識②	現在のアフレコについての知識		
	4	機材実習	アフレコに必要機材について、機材の設営について		
	5	台本実習	台本の読み方、めくり方について		
授 業	6 マイクワーク実習		マイクワークについて		
授 業 計 画	7	アフレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技) 喜楽①		
	8	アフレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技) 喜楽②		
前期	9	アフレコ実習③	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀①		
	10	アフレコ実習④	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀②		
	11	アフレコ実習⑤	日常会話(ナチュラルな演技) 複雑な感情表現		
	12	アフレコ実習⑥	日常会話(ナチュラルな演技)		
	13	前期期末試験	日常会話のアフレコ表現の実技テスト		
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		アフレコ実習			指導担当者名		小椋	有紗
実務経験	有	有 3年以上、声優・役者としてプロダクション所属			)経験			
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	アフレコに関す	プフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 気数配分し、100点満点で評価していく。 明末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	台本、筆記用具							
授業外学習の方法	台本読み、役作り等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	前期振り返り	前期振り返り、後期授業内容の確認
	16	アフレコ実習①	ボイスコミック①
	17	アフレコ実習②	ボイスコミック②
	18	アフレコ実習③	ボイスコミック③
	19	アフレコ実習④	ゲーム台本①
授 業	20	アフレコ実習⑤	ゲーム台本②
授 業 計 画	21	アフレコ実習⑥	アクション①
	22	アフレコ実習⑦	アクション②
後期	23	アフレコ実習⑧	アクション③
	24	アフレコ実習⑨	作品一本通し①
	25	アフレコ実習⑪	作品一本通し②
	26	アフレコ実習⑪	作品一本通し③
	27	前期期末試験	アフレコ現場を想定した実技テスト
	28	前期振り返り	後期授業内容の確認

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ダンス実習Ⅱ			指導担当者名		藤原悦子	
実務経験	有	有 ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事					
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	:
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・体力の向上を	ダンス表現の基礎学ぶ 体力の向上を図る 肉体の柔軟性の向上を図る					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 数配分し、100点満点で評価していく。 別末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	なし						
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
授 業 計	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る
計画	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る
	8	様々なダンスジャンル②	ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る
前期	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ダンス実習 Ⅱ				指導担当者名		藤原悦子
実務経験	有 ダンススタジオ経営、ダンサーとしての			:しての業務に従	事		
開講時期	通年		対象学科学年		声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数	84		時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・体力の向上を	・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	なし						
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等						

#### 学期 項目 内容·準備資料等 ターム 前期振り返り ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 15 振り付け① ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 16 17 振り付け② ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 振り付け③ ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 18 19 振り付け4 ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 授 振り付け⑤ 振り付けの中間確認を行う・フィードバック 20 業計 中間発表 ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 21 画 22 振り付け⑥ ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 後 23 ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 振り付けつ 期 24 振り付け8 ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 ダンス発表に向けた振り付けと反復練習 25 振り付け9 26 振り付け⑩ ダンス実習 実技小テスト 後期期末試験 ダンス発表 27 後期振り返り 後期学習内容の振り返り 28

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
- ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	コンテンツ制作実習 Ⅱ				指導担当者名		伊東 広
実務経験	有 長年にわたる音響制作、スタジオ経営者			才経営者			
開講時期	通年		対象学科学年		声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数	84 時間				週時間数		3 時間
学習到達目標	<ul><li>パソコンでの</li><li>文章作成/構</li></ul>	・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作					
	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類						
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク~スピーカー音が出るまで		
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存		
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音		
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIFキューベース① 録音		
	5	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1		
授業	6	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1		
授 業 計 画	7	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	8	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
前期	9	ボイスサンプル研究①	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	10	ボイスサンプル研究②	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	11	ボイスサンプル研究③	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	12	ボイスサンプル研究④	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	13	前期期末試験	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	コンテンツ制作実習 Ⅱ				指導担当者名		伊東 広
実務経験	有長年にわたる音響制作、スタジオ経営者			才経営者			
開講時期	通年		対象学科学年		声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数	84 時間				週時間数		3 時間
学習到達目標	<ul><li>パソコンでの</li><li>文章作成/構</li></ul>	・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作					
	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類						
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う						

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
	15	音響制作①	舞台音響制作体験①
	16	音響制作②	舞台音響制作体験②
	17	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画
	18	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画
	19	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング
授 業	20	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング
授 業 計 画	21	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出
	22	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出
後期	23	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出
	24	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業
	25	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業
	26	作品制作⑪	ボイスラジオドラマ制作 編集作業
	27	後期末試験	ボイスドラマ完パケ
	28	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	吹き替え実習			指導担当者名		小椋	有紗	
実務経験	有	声優・役者として	てプロダクション	所属の経験				
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	アテレコの基础	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A,B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	台本、筆記用具							
授業外学習の方法	台本読み、役作り等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の流れの確認
	2	アテレコの基礎知識①	外画について、外画の見方について
	3	アテレコの基礎知識②	アテレコ、アフレコの違いについて
	4	アテレコの基礎知識③	外画の視聴、解説等
	5	アテレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技)①
授 業	6	アテレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技)②
授 業 計 画	7	アテレコ実習③	日常会話(コミカル)①
	8	アテレコ実習④	日常会話(コミカル)②
前期	9	ラジオドラマについて①	ラジオドラマについて
	10	ラジオドラマについて②	ラジオドラマ実習
	11	アテレコ実習⑤	日常会話(ショートムービー)①
	12	アテレコ実習⑥	日常会話(ショートムービー)②
	13	前期期末試験	アテレコ実践テスト(日常会話)
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		吹き替え実習			指導担当者名		小椋	有紗
実務経験	有	有 声優・役者としてプロダクション所属の経験						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	アテレコの基础	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 或績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A,B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。						
使用教材	台本、筆記用具							
授業外学習の方法	台本読み、役作り等							

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
	15	前期振り返り	前期の振り返り、後期の流れ確認
	16	アテレコ実習⑦	海外ドラマ(専門用語系)①
	17	アテレコ実習⑧	海外ドラマ(専門用語系)②
	18	アテレコ実習⑨	海外ドラマ(ホラー系)①
	19	アテレコ実習⑪	海外ドラマ(ホラー系)②
授 業	20	ラジオ番組①	ラジオ番組実習
授 業 計 画	21	アテレコ実習⑪	映画作品一本通し①
	22	アテレコ実習⑫	映画作品一本通し②
後期	23	アテレコ実習⑬	映画作品一本通し③
	24	ラジオ番組②	ラジオ番組実習
	25	アテレコ実習⑭	映画作品一本通し④
	26	アテレコ実習⑮	映画作品一本通し⑤
	27	後期期末試験	アテレコ現場を想定した実技テスト
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	演技表現実習Ⅱ			指導担当者名		穂月	
実務経験	有	県内外のMC・プ	トレーターに従事	。日本俳優連合	·会組合員。		
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	
授業方法	講義:		演習:		実習: 〇		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・演技表現の	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 或績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	台本						
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等						

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション
	2	演技とは何か?	様々な演技表現、自身の芝居を振り返る
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、応用トレーニング①
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、応用トレーニング②
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①
授 業 計	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②
計画	7	実践トレーニング⑤	エチュード①
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②
前期	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」
	10	実践トレーニング⑦	感情表現「怒」
	11	実践トレーニング⑧	感情表現「哀」
	12	実践トレーニング⑨	感情表現「楽」
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	演技表現実習Ⅱ			指導担当者名		穂月	
実務経験	有	県内外のMC・プ	トレーターに従事	。日本俳優連合	·会組合員。		
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間
学習到達目標	・演技表現の基	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。					
	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	台本						
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等						

学期	ターム	項目	内容•準備資料等				
	15	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①				
	16	舞台稽古	キャスト別台本読み②				
	17	舞台稽古	立ち稽古①				
	18	舞台稽古	立ち稽古②				
	19	舞台稽古	立ち稽古③				
授 業	20	舞台稽古	立ち稽古④				
授 業 計 画	21	舞台稽古	立ち稽古⑤				
	22	舞台稽古	通し稽古①				
後期	23	舞台稽古	通し稽古②				
	24	舞台稽古	通し稽古③				
	25	舞台稽古	リハーサル				
	26	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み				
	27	後期期末試験	舞台本番にて実技試験				
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り				

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ			指導担当者名		ちば	えみ	
実務経験	有	10年以上、県内	引外のMC・ナレー	ターに従事。日	本俳優連合会組	合員。		
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	・司会、イベン	司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					施の出席率80%以上 4段階とする。A, B,	
使用教材	MC原稿、筆記用具							
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション
	2	ラジオMC実習①	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ
	3	ラジオMC実習②	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ
	4	ラジオMC実習③	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ
	5	ラジオMC実習④	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ
授 業	6	ラジオMC実習⑤	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ
授 業 計 画	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品のナレーションイベントMC
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC
前期	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名		ラジオ・MC実習Ⅱ			指導担当者名		ちば	えみ
実務経験	有	10年以上、県内	引外のMC・ナレー	ターに従事。日	本俳優連合会組	合員。		
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0		実技:
年間時間数		84	時間		週時間数			3 時間
学習到達目標	・司会、イベン	司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。						
評価方法 評価基準	点数配分し、1 期末試験は実 を要件としてい 成績評価は「A	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					施の出席率80%以上 4段階とする。A, B,	
使用教材	MC原稿、筆記用具							
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等
	15	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会
	16	ラジオ番組制作①	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	17	ラジオ番組制作②	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	18	ラジオ番組制作③	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	19	ラジオ番組制作④	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
授業	20	ラジオ番組制作⑤	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
授 業 計 画	21	ラジオ番組制作⑥	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	22	ラジオ番組制作⑦	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
後期	23	ラジオ番組制作⑧	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	24	ラジオ番組制作⑨	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	25	ラジオ番組制作⑩	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	26	ラジオ番組制作⑪	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う
	27	後期期末試験	実技テスト
	28	後期振り返り	後期学習内容の振り返り

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	Vtuber実習 II 指導担当者名 ナナオ					ナナホシナナ		
実務経験	有	配信関係の仕事	事及びVtuberとし	ての活動歴合詞	十で3年以上従事	<u> </u>		
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間	
学習到達目標	□標 Vtuberの活動の裏側や、配信技術、キャラクター作り、ファンとの関わり方など、実践的な知識を身につける。							
評価方法 評価基準								
使用教材	パソコン							
担業外学習の方法	様々な映像作品を見る							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	授業の流れについて		
	2	Vtuberとは?	Vtuberの定義や歴史を学ぶ		
	3	Vtuber業界の仕組み	企業勢と個人勢の違いや運営体制を知る		
	4	キャラクターデザインとブランディング	キャラ設定や差別化のポイントを学ぶ		
	5	Vtuberの機材とソフト	必要な機材やソフトの種類を理解する		
授 業	6	Live2D・3Dモデルの基礎	モデルの仕組みや作成方法を学ぶ		
授 業 計 画	7	Vtuberの配信プラットフォーム	各プラットフォームの特徴を知る		
	8	動画制作と編集技術	動画の作り方や編集技術を学ぶ		
前期	9	配信技術と環境構築	OBSの設定や音声調整を学ぶ		
	10	配信コンテンツの企画と運営	配信の企画やジャンルの特徴を学ぶ		
	11	コラボ配信の戦略	コラボの進め方や戦略を学ぶ		
	12	SNS運用とファンコミュニケーション	SNSの活用法やファンとの関係を学ぶ		
	13	収益化の仕組み	収益モデルや収益化の方法を学ぶ		
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	Vtuber実習 Ⅱ			指導担当者名		ナナホシナナ		
実務経験	有	有 配信関係の仕事及びVtuberとしての活動歴合計で3年以上従事						
開講時期	通年		対象学科学年			声優科 2年生	<u> </u>	
授業方法	講義:		演習:		実習: 〇		実技:	
年間時間数		84	時間		週時間数		3 時間	
学習到達目標	標 Vtuberの活動の裏側や、配信技術、キャラクター作り、ファンとの関わり方など、実践的な知識を身につける。							
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。							
使用教材	パソコン							
極業な登場の大法	キギ <i>チッ</i> トンロh <i>悔ル</i> ヒ ロ む 目 ヱ							

### 授業外学習の方法様々な映像作品を見る

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	0	0		
	2	グッズ販売とマーチャンダイズ戦略	グッズの展開や販売方法を学ぶ		
	3	炎上対策とリスクマネジメント	炎上事例を分析し対策を学ぶ		
	4	Vtuberの法律と著作権	著作権や企業案件の注意点を知る		
	5	Vtuber事務所・プロダクションの運営	企業勢の運営やマネジメントを学ぶ		
授 業	6	バーチャルライブ・イベント運営	ライブの仕組みやイベント企画を学ぶ		
授 業 計 画	7	AIとVtuberの未来	AI技術の活用や未来の展望を考える		
	8	実践ワークショップ①: Vtuber企画発表	自分のVtuberキャラを考え発表する		
後期	9	実践ワークショップ②: 模擬配信	模擬配信を行う		
	10	実践ワークショップ③	企画を元にした動画配信・撮影		
	11	実践ワークショップ④	撮影した動画の編集		
	12	実践ワークショップ⑤	編集したデータのフィードバック		
	13	実践ワークショップ⑥	フィードバックをもとに再調整の実施		
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	声優総合実習Ⅱ			指導担当者名		矢田部 翔子		
実務経験	無							
開講時期	通年 対象学科学年 声優科 2年生							
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数		3 時	間	
学習到達目標	・前期:オーディションに向けたオーディション対策、業界研究 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。							
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。							
使用教材	MC原稿、筆記用具							
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション	授業の流れの説明、教材について		
	2	業界研究	声優事務所、プロダクション研究		
	3	業界研究	声優事務所、プロダクション研究		
	4	業界研究	声優事務所、プロダクション研究		
	5	業界研究	声優事務所、プロダクション研究		
授 業	6	業界研究	声優事務所、プロダクション研究		
授 業 計 画	7	オーディション対策	オーディション対策		
	8	オーディション対策	オーディション対策		
前期	9	オーディション対策	オーディション対策		
	10	オーディション対策	オーディション対策		
	11	オーディション対策	オーディション対策		
	12	オーディション対策	オーディション対策		
	13	オーディション対策	オーディション対策		
	14	前期振り返り	前期授業内容の振り返り		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	声優総合実習Ⅱ			指導担当者名		矢田部 翔子		
実務経験	無							
開講時期	通年 対象学科学年 声優科 2年生							
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数		3	時間	
学習到達目標	・前期:オーディションに向けたオーディション対策、業界研究 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。							
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。							
使用教材	MC原稿、筆記用具							
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等							

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	15	舞台基礎①	舞台の基礎知識、役者、スタッフの役割について学ぶ		
	16	舞台基礎②	舞台の基礎知識、舞台の道具、舞台の構造について学ぶ		
	17	衣装制作①	舞台衣装の制作実習		
	18	衣装制作②	舞台衣装の制作実習		
	19	大道具制作①	舞台道具の制作実習		
授 業	20	大道具制作②	舞台道具の制作実習		
授 業 計 画	21	舞台稽古①	台本の内容、セリフを覚える。		
	22	舞台稽古②	台本無し、動き有りの演技		
後期	23	舞台稽古③	本番に向けた稽古を重ねる、舞台演出について学ぶ		
	24	企画、構成	企画チームを発足し、ボイスドラマ制作の企画を行う		
	25	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成		
	26	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成		
	27	後期期末試験	プレゼン資料の提出、プレゼンテーションを行う		
	28	後期振り返り	後期の授業内容の振り返りを行う		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	著作権概論			指導担当者名		矢田部 翔子		
実務経験	<del>無</del>							
開講時期	前期		対象学科学年			声優科 2年生		
授業方法	講義:	0	演習:		実習:		実技:	
年間時間数		28	時間		週時間数		時間	
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格							
評価方法 評価基準								
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト							
授業外学習の方法	テキストの復習等							
~ #	h_1		香日	-		中央, 淮	<b>萨</b>	

学期	ターム	項目	内容·準備資料等		
	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的		
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの		
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者		
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)		
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権		
授 業 計	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物		
計画	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護		
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物		
前期	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係		
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは		
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害		
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権		
	13	検定対策	模擬試験		
	14	期末試験	検定本番		

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

科目名	卒業制作			指導担当者名	担任					
実務経験	無									
開講時期	後期	後期				声優科 2年生				
授業方法	講義:		演習:		実習:	0	実技:			
年間時間数		180	時間		週時間数		180 時間			
学習到達目標	標・卒業生:2,3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。									
評価方法 評価基準										
使用教材	デジタルコンラ	テンツ制作に必	要な物を各自月	用意。						
授業外学習の方法	制作にあたり、	、事前の企画・	計画をそれぞれ	ւ複数の先生方	うと行い、チェッ	クをもらう事				
学期	ターム		項目			内容·準	備資料等			
	1	作品制作①			事前に準備して	いた企画・計画	に沿ってそれぞれ制作にあたる			
	2	作品制作②			個別添削を行	いながら制作る	を進めていく			
	3	作品制作③			中間発表					
	4	学科内プレゼ	ンテーション		学科内でプレー	ゼンテーション	を実施			
	5	を表を受けての修正と展示準備 オンライン展示およびオンサイト展示を実施								
授 業	6	卒業•修了制作	作展		展示終了後は	、アーカイヴ化	こし、デジタル保存をする			
業 計 画	7									
一	8									

#### 履修上の留意点

後 期

- ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施